

新潟県

平成6年

公民館月報

4月

第494号

特集 公民館のしごとを知ろう



春の加茂山公園

春四月、加茂山公園は一斉に花が開く。

県の木であり市の花でもあるユキツバキはもちろん、

サクラの花も満開だ。

加茂山公園にはさまざまな施設が整備されている。

雪橇園、彫刻の森、大型スライダー、児童遊園。

大人から子どもたちまで十分に楽しんでいる。(写真資料加茂市公民館提供)

分科会協議を重点に

県公民館大会を成功させよう!!

会場 十日町市公民館

期日 平成六年七月二十九日(金)

来る7月29日開催予定の第45回県公民館大会の要項案ができた。なおこの要項案は、4月25日(月)に開催される平成6年度第1回評議員会で正式決定される。

主題は「新しい時代の公民館の在り方を考える」とし、公民館体制の諸問題に視点をのこした研究討議となる。

加意識を高めることをねらったこと、第二は集落公民館関係者の参加を呼びかけたこと、第三には、前日の「十日町青年学級」を公開する点である。

(案) 第45回新潟県公民館大会開催要項

新しい時代の公民館の在り方を考える

～公民館体制の現状と整備の方向～

1. 趣旨 生涯学習時代の公民館は、高度化、多様化しつつある学習ニーズへの対応や、地域課題の掘り起こしなど、その役割はますます高まっております。このような学習需要に積極的に応え得る公民館施設・設備の整備や運営について研究協議し、新しい時代の公民館の在り方について考えようとするものであります。

公立公民館はもとより集落公民館等公民館類似施設においても、暮らしの中の今日的課題を掘り起こすとともに、館長・職員、公民館運営審議会委員等役職員の在り方について考える機会とします。

- 2. 主催 新潟県公民館連合会 中越地区公民館連絡協議会
中魚沼郡・十日町市社会教育振興会
- 3. 共催 新潟県教育委員会 新潟県公民館振興市町村長連盟
十日町市・十日町市教育委員会
- 4. 主管 中魚沼郡・十日町市社会教育振興会
- 5. 後援 略
- 6. 日時 平成6年7月29日(金)

※ 前日28日の午後7時から、「青年学級」を開設し自由参観としますので、前泊しての見学をお勧めします。参観希望の方は7:30から簡単な説明と教室を案内します。

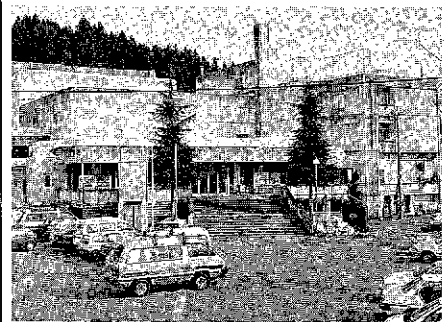
なお、この「青年学級」は、いわゆる「青年学級振興法」に基づいて開設しているもので、全国で数少なくなっているものであります。

- 7. 会場 十日町市市民会館、十日町市公民館
- 8. 参加者 略
- 9. 分科会 7部会を予定
館長部会…常勤館長 非常勤館長(希望者の多い場合は2分散会にする)
職員部会…市部公民館 町村公民館(希望者の多い場合は2分散会にする)
公運審部会…1部会

- 10. 記念講 群馬大学教授 萩原元昭殿
- 11. 日程

	9:00	9:30	10:20	12:20	13:30	15:00	15:30
1日	受付	開会式	分科会	昼食	検討中(アトラクション)	記念講演	閉会式

- 12. 参加費 2000円(資料代)
- 13. 参加申込 参加者は別に定める申込書により、市町村ごとに取りまとめるうえ、6月30日(木)までに下記の大会事務局へ申し込んでください。
◆ 宿泊費は2食つきで7,000円～9,000円程度の模様
大会事務局 〒948 十日町市辰甲730-1 十日町市公民館内
第45回新潟県公民館大会事務局
TEL 0257-57-5011



会場となる十日町市公民館

新任公民館職員にすすめるハンドブック

公民館経営の手引

公民館運営審議会委員の手引

B5版 62ページ
500円(送料実費)
B5版 62ページ
500円(送料実費)

社会教育学級等における

学習計画立案の手順と方法

B5版 44ページ
500円(送料実費)

横浜国立大学教授 吉川 弘著

上村事務局長退任

後任に鴨井三郎氏

本会の事務局長上村捨二郎氏が四月末日をもって退任することになった。このことについては、既報(三月号)のとおり去る二月二十八日開催の理事会で承認されているもので、後任には本年三月三十一日付けをもって三条市立第二中学校長を定年退職した鴨井三郎氏が、来る五月一日付けで就任することに

なっている。上村事務局長は、昭和六十一年四月以来八間にわたり、県公連事業推進の中核として活躍して来たが、かねてから、高齢による思考の硬直性を理由に後進に道を譲りたいと辞意を表明していたもの。

後任の鴨井三郎氏は、昭和五十二年から派遣社会教育主事、

県教育庁下越教育事務所副参事(社会教育主事)を歴任した社会教育行政のベテランで、公民館の管理運営にも専門的識見を持った方である。その上、県立青少年研修センター、県少年自然の家の指導員としての勤務経歴もあり(断続八年間)、その行政的・実践的力が買われたもので、これからの県公連事務局長としての手腕が大いに期待される。

なお、上村事務局長は退任後もイノベーターとして協力することになっている。

視 点

新しい年度を迎え、新しく公民館職員になられた皆さんを心から歓迎いたします。

住民の自発的な学習意欲があくまでも土台となる公民館活動は、

を何よりも大切に人間らしく生きたい。間らしく生きたい。

住民の方々と接する時にこのことを忘れて、至れり尽くせりのサービスではなく、主体者としての自分の役割を果たしていただくようにすることが、大切ではないかと思っております。

まず自ら燃えよ

徳間 助 夫

その住民の自発的な学習意欲をいかにして高めるかが基本的な課題となっており、

また私は、住民の皆様は公民館活動のお客様ではなく主人公であり、客体ではなく主

自分の

また私は、住民の皆様は公民館活動のお客様ではなく主人公であり、客体ではなく主

自分の

また私は、住民の皆様は公民館活動のお客様ではなく主人公であり、客体ではなく主

(稲崎市西中通 公民館長)

生涯学習と子供達

清野喜八郎



今年、町の公民館運営協議会委員の委嘱を受けた、ほやはの一年生です。先日、町の生涯学習振興大会の案内を戴き、早速参加いたしました。生涯学習という言葉は最近になって聞いた様に思っておりますが、参加して見て、びっくり、すでに十三回目と言う、関心のなさが思い知らされました。発表は約三十地区の公民館の中から、五地区を選び、各公民館の活動状況の発表並びに、特別講演等で大会のテーマは、ふれあい・たすけあい・学びあい・と言うことで、地域の特性を活かした、地区公民館の振興を計るもので各地区共、それぞれ特色ある発表がなされており、発表者の方々の御苦労の程が察せられました。一人一学習と言われおりますが、仲々実行出来ないのでが現状です。中央教育審議会の答申では、これからの学習は、各人が自発的意志に基づいて行うことを基本とするもので

ひ る ば

あり、必要に応じて、自己に適した手段、方法はこれを自ら選んで生涯を通して行うものであると言ひ、言いかえれば、人間死ぬ迄勉強であると言ひことである。大会が終った帰り道、公園の中を歩いていたら、小学校四、五年生位の女の子二人に出合った、突然子供達の方から、コンニチワと言ひ挨拶があつた、反射的に私も、コンニチワと挨拶を返したが、まさか、小学校の子供達から声を掛けられるなんて、思つてもみなかっただけに、子供達の純真な態度に、ほのほのとした、ふれあいの念にかられ胸の内が、スツ、とさわやかな気分になつた。これも学校と家庭との環境が子供達に自然に、そうさせたのかも知れない。

不安定な今の社会情勢を見てみると、未来を担う子供達の教育には学校と家庭は勿論のこと社会全体が関心をもち、子供の自主性と明るくて素直な、そしてほのほのとした気分になれる様な環境作りも心掛けねばならないと思ひ。(安田町公民館運営審議会委員)

はじめに

四月は、公民館に配転された人、新採用のニューフェイスと多くの人々が悲喜こもごもの思いで着任される月。そして、一様に「公民館とは、どんな仕事をすると」と疑問や不安を抱いているのではないかと思います。あるいは、どちらかというと暗いイメージを抱いて赴任した人もいるのではないかと思います。

そこで、新しく公民館職員になられた方々のために、生涯学習時代の公民館職員(館長を含めて)に求められる仕事(職務)について、その基本的な事柄を

の公民館ガイド I ごとを知ろう

述べます。

一、公民館は何をするところ

公民館の、事業については、社会教育法の二十二条に七つの項目として記されています。これらの事業についての企画立案実施にあたるのが公民館職員の仕事(職務)です。

また、何のために行なうのかと申しますと、市町村その他一定区域内の住民を対象に、教養の向上、健康の増進、情操の純化を図る、いわば個人的側面(生活課題)と、生活文化の振興、社会福祉の増進という社会的側面(地域課題)についての課題解決をねらった各種の事業を行なう教育施設です。

これを、自ら実施する主催事業と側面から応援援助する援助事業に二大別します。

1 主催事業

これは公民館が自ら実施する事業で、生涯学習の理念や実際についての啓発活動、学級・講座などの開発(学習機会の提供)、またそれらの情報提供や相談事業など多種多様な主催事業が展開されます。

「公民館(職員)は事業で勝負する」ということが言われますが、主催事業こそ公民館の生命です。職員が主催事業にどのような英知をこらし、住民の期

待に込んでいるかが、その公民館の活動のパフォーマンスです。

ところが、昨今「うちの公民館はいつも自主サークルの利用で大繁盛、嬉しい悲鳴を挙げています」と手放しで喜んでいる声を聞くことがあります。利用者で超満員というのは貸しホールとしての活用に過ぎません。そこに、公民館のイメージを低下させている要因があると考えます。

したがって、新任の皆さんはまず、主催事業の理解に取り組みむことをお薦めします。むしろ個々の公民館によって予算規模・職員体制・施設規模・住民の学習要求など様々な条件の違いがありますので一律には考えられません。そこで、ここでは比較的どの公民館でもやれることを想定して考えてみます。

まず、あなたの従事する公民館のサービスマニアについての社会教育計画を理解することから始まるわけです。住民の年齢構成、家族構成、地域の主たる産業などの基礎資料の把握や、生活の課題・地域の課題などを捉えることが必須の要件です。

案がなされ、実施の運びとなり

また、個々の事業の展開のためには、「学習プログラムの編成」という作業も必要になります。失礼ながら新任の職員にとっては、この辺から分らないようになっていくものと思われ

そこで、まず前任職員によって実施された過年度の事業や、今年度の事業計画についてつぶさに検討することから始めるのが効果的でしょう。

その検討にあたって、特に留意する必要がある点としては、
①地域住民の生活課題や地域課題をどのように押えていたか、
②その課題に基づいて、その事業をどのように展開したか、
③住民の学習ニーズは、
④事業展開の方法や内容など、
⑤事業実施後の成果(評価)

などについての検討をし、今後の参考にする事です。そして、一日も早くあなた自身が企画立案の主役になってください。

2 援助事業

グループやサークル、社会教育関係団体の活動への援助の事業も公民館の大切な仕事です。学級・講座などに参加した住民が、さらに学習を継続したいために、個人で、あるいはグループで自主活動することは、お

おいに奨励することです。グループ活動を効果的に進めるための指導や助言・援助も公民館職員の仕事です。

さらに、これらの人々が、学習の成果を地域のために役立てようと、啓発活動や、ボランティア活動など(学習の還元活動とか社会還元という)に発展できるようにすることも公民館職員の大切な仕事です。

また、社会教育団体の活性化は、地域づくりの原動力でもあるわけです。団体の把握や育成にも力を入れたいものです。

3 事業の構造化の視点

さて、先輩の取り組んできた事業の分析によって職員としての事業の進め方が分かってきましたら、それを構造的に捉えることです。生涯学習という大きな概念の中で、公民館の位置や役割が一層明確になってきます。全国公民館連合会の第五次答申「生涯学習時代に即応した公民館の在り方」(昭和五十九年)に示されていますので参考にしてください。概略は次のとおりです。

第一構造の事業

いわば「準備の段階」です。知らせる、啓発する、問題を提起するためのもので、例えば広報活動、展示活動など課題の

新任職員のため 公民館のし

4 施設設備等の整備の仕事

公民館は社会教育の施設ですから住民の多種多様な学習・文化・スポーツ活動が活発に行なわれるための条件整備が必要です。学習室や実習室の整備はむろんのこと、家庭教育学級を促進するためには保育室が必要であるとか、身体障害者の学習活動のためには、車椅子用の廊下やエレベーターなどを敷設する必要がありま。また視聴覚室、図書館、軽スポーツのための体育室や、利用団体のための備品収納庫の設置など、住民の学習活動に対応する施設の整備が必要です。それらの整備事業が、基礎的な事業としてとらえられます。

このような条件整備は、市町村の財政の問題などもあり、容易に整備できるといえるものではありません。(この種の仕事はどちらかというと公民館長の仕事となる部分が多いでしょう)住民サービスの基本になるものから、整備の充実に心がけ、公連審に諮るとか、年次計画により計画的に整備を進めていくなど大切な仕事であります。

三、公民館職員の心構え

公民館職員には、一般行政の職員にはない、公民館職員としての心構えが必要です。次のこ

1 窓口業務は住民と直接ふれる

窓口業務は住民と直接ふれるところ。住民と公民館を結ぶ「公民館の顔」です。事業への参加申込みの受け付け、施設利用のための貸し出しの仕事や相談などへの言葉づかいや電話の応答など、明るい窓口づくり心がけてください。公民館が行なう住民サービスをより高めることが第一の仕事です。

ある公民館長が「住民にとっての役場は、行かなければならないから仕方なしに行かねばならないところ。公民館は行きたいから行くところ、という姿勢を忘れるな!」と言っていました。その意味を十分に味わってください。

2 手まめ足まめに

今はふれ合いの時代です。対象区域内の住民に直接ふれ、人々のもつ潜在的な悩みや要求を知ること。また、そこにどのような団体やグループがあり、どんな交流がなされているかを、知ることが、生活の課題や地域の課題を把握することになります。

そのため、足まめに地域に向くことが大切です。また、出向いて地域の住民から学ぶためには、土産を持参することも必要になります。その土産と

3 地域内のリーダー把握

各種団体のリーダーや公民館利用グループのリーダーの把握や育成に心がけることです。これらのリーダーこそ地域づくり不可欠な存在ですし、そればかりでなく、ボランティアとして公民館職員の味方になって手助けしてくれる心強い人たちです。

4 感性を磨け

近年の公民館に欠けているもの一つに「来てよかった!」と住民に満足してもらえる事業、つまり、感動を与える事業が少なくことがあげられます。感動を与える事業に取り組むためには職員自身の「感性」を高めることが大切であろうと思えます。美的感性、情的感性を磨き、職員自身が感動する事業を組むことです。

おわりに

最後に、愛媛大学の讃岐幸次教授による、次のような興味深い記事が「月刊公民館」(平成四年四月号)に掲載されていたので紹介します。
「……最近配置替えになった

公民館主事と話していると、な

らうと愚痴をこぼす人もいる。

公民館は、市町村部局や教育委員会の職場と比べれば、3Kの職場だといえるのである。日曜日や夜ほど忙しく、ゆっくり休む暇もない「Kyuka(休暇)がとれない」。また社会教育関係団体等の請負業務や教育委員会などから下りてくる下請けの事務処理、さらには会場の机並べや椅子の片付けなど「Kurai(暗い)」仕事ばかり。その上公民館には自分以外の職員は殆どなく、離れ小島に島流しにあったような「Koritsu(孤立)」を強いられる。このような公民館は3Kの典型的な職場だから一日も早く去りたい、こんな思いを抱きながらイヤイヤ公民館活動に関わっている職員が残念ながらもなくはない。

確かに公民館という職場は、3Kと言われる一面をもっているかもしれない。しかし、何事も表があれば裏もある。見方を

変えれば、公民館は他の職場と違って自分の発想が生かせ、自分が主役になれる「Kikaku(企画)」「Koryu(交流)」「Koubou(広報)」といった活動のできる「新3K」の職場ではないか……と。

第二構造事業

「基礎形成の段階」です。学級・講座や講演会、行事、相談事業、資料提供やロービークなどの学習機会の提供です。

第三構造事業

「積極的学習推進段階」です。自ら学ぶことへの援助をするこ

第四構造事業

「社会還元段階」です。表現、連帯活動への援助、つまり、団体・協議会等への援助、地域活動への援助や助言などです。

主体性を求めて

小須戸町の分館活動

はじめに

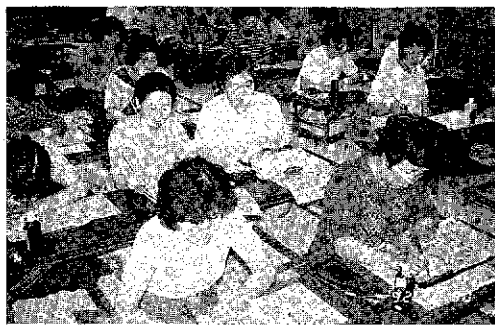
小須戸町は人口一万余、二千六百世帯の小さな町です。町の公民館、本館一館(中央公民館と呼称)と分館四館からなっています。分館は旧小学校区ごとに、旧保育所、集会所などを施設として活動しています。

分館の活動

本館は町全体を対象とした事業が主となるため、地域活動の主体は分館にしています。その

小須戸分館のプロフィール

小須戸分館は人口四千余人、



〈表1〉小須戸分館
年間活動計画

専門部	事業
青少年部	・親子映写会 ・雪中レクリエーション
婦人部	・婦人のつどい
成人部	・早朝ウォーク ・第1ゲート通過 チャンピオン大会 ・町民鮎釣り大会
体育部	・分館野球大会 ・ふれあい運動会 ・ラジオ体操 講習会
文教広報部	・分館広報 ・ふれあい運動会 写真コンクール
総務部	・会議と各事業部の とりまとめ

〈表2〉小須戸分館
「婦人のつどい」
年間学習計画

月	活動内容
6月	・日常使う毛筆を習 おう(全3回)
7月	
8月	・花と緑館を活用し よう
9月	・冠婚葬祭とそのマ ナー(全2回)
10月	・腰痛、肩こり その原因と予防
11月	・知ってトクする痴 呆症の予防と対応
12月	・正月に飾る花
3月	・簡単にできる おかずづくり

のため、分館のそれぞれが地域性と独自性を持ちながら自主的な活動を行なっています。

したがって、本館との事業の協力は「婦人学級」などの一部の事業で、あとは分館独自の事業として取り組んでいます。このため、本館との連携が希薄なものではないかという問題もありませんが、地域が考え、地域が主体的に取り組むことが生涯学習を推進するうえでより大切であるという考え方によるもので

世帯数一千戸、町の中心部をエリアにした、当町ではいちばん大きな分館です。

年間の事業予算は六十万円、うち本館から配分される予算は二十五万円、他は地域内各戸の負担となっています。

活動は六つの専門部(表1参照)に分かれ、それぞれの部が創意をこらして、積極的に活動を展開していますが、予算の少ないのが悩みの種です。これらの専門部活動のうち、婦人部が取り組んでいる婦人学級「婦人のつどい」(本館との連携のある事業)について紹介します。

「婦人のつどい」

学習プログラム(表2参照)の立案は、分館婦人部役員(部長・副部長2名・役員5名)が中心となり、分館長、本館事務局と立案します。今年のテーマは、「幅広い知識を得よう、そして生活の中に生かそう」です。学習プログラム立案という

い、学び、結ぶ」という公民館活動の基本を理解し運営することが大切だと思うからです。

学習内容は生活に密着したものにし、日常生活の中に生かしていくことにより、「学習」の成果をつかみとることをねらっています。また、三年前から「婦人の集い」は名簿登録者のみでなく、地域の女性全体を対象とした活動に変えてきました。それは、より多くの人たちの参加により、次の活動につなげていくことを狙ったものです。

参加者の要望では、「同一の学習項目で年間を通して継続した方が効果的なものもあるのでは」立させた方がよい、「一つの項目でもっと回数をふやして欲しい」など主催者側の励みに必要な意見や要望をたくさんいただきました。

今後の課題としては、現在参加している人たちが、次の「婦人の集い」のリーダーになってほしいこと、つまり、リーダーの育成策を考える必要があります。一人でも多くの方から参加していただき、「婦人のつどい」の仲間づくりに取り組む必要があります。

おわりに

(小須戸町中央公民館主事 水沢喜代志記)

サークル交流

見て、聴いて、参加 小出町水彩画を楽しむ会

小出町北部地区コミュニティ協議会(会長星 藤哉)教養文化部の事業の一環として昨年六月「水彩画を楽しむ会」を計画した。予想外の多くの愛好者が集い盛会であった。

どこの家庭にもある子供、孫の図画の用具の拝借で充分である。(毎週土曜の夜、月曜は午後、各二時間程度。指導者は地元白日会、白家会々員松原修司)口こみで近隣の町村からの参加者もあり、身の廻りの器物、四季



おりおりの草花等をスケッチしている。現在はコミ協事業に引きつづいて自主運営、自主財源で(会長池田徳治)活動している。

「絵を描いてみたかった。」「描きたい。機会がなかった。」「どうやら呼びかけが功を奏したようだ。自ら学び(生涯学習)楽しく描いて額に入れチョイトと居間に飾り自己満足?家族の者から、友から褒められれば最高である。」「見て、聴いて、参加しよう」と、ある会場でみたサブタイトルである。

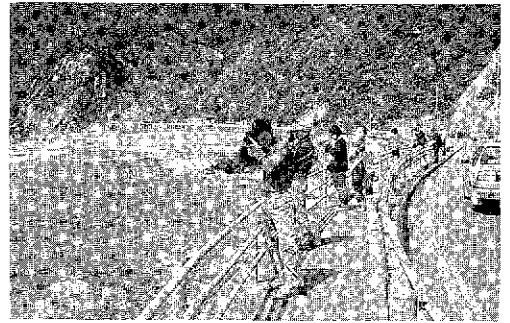
(小出町水彩画を楽しむ会
池田徳治 記)

レンズの中は別世界

五泉市フォトクラブ

三年前、公民館の初心者写真教室より始まったこのサークルも年々好評で会員も増え写真を通しての友達の輪が大きく広がって来ました。

この会は自分で撮った写真やスライドを持ち寄り、ポイントを話し合ったり時には厳しい批判をいただいたり、みんな有意義な時間を過ごしています。また、春と秋には撮影会と銘



うって大自然を相手にシャッターチャンスを狙います。その時は我を忘れ一番良い場所を探して歩くことと、友人と「しばり」はどの位にした方がいいね」等とみんな夢中になり、また出上来がる作品を思うと期待で胸がワクワクします。そして出来上がった作品を見せ合い笑ったり悔やんだりの繰り返して「和」を保っています。その甲斐もあって毎年何人かが受賞の喜びにひたっています。これもすばらしい講師との出会いがあったからこそと感謝しています。今後もみんなで楽しくそして良い作品作りを心して行きたいと思っています。

(フォトクラブ 金子久子 記)

紫雲寺町中央公民館主事

山下哲哉 氏 (23歳)

昨年春、大学を卒業後UTターンをして公民館へ。第一声が「お世話になった方のために頑張りたい」と言うから殊勝なもの。大学時代は卓球部の副主将として活躍し、昨年は県代表で団体にも出場したスポーツマン。今でも、週一回は必ずアフター5に中学校の体育館で自らの鍛



練を兼ねて後進の指導に汗を流している。明るい性

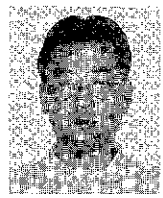
格とウィットに富んだ機敏な対応で、子供の間でも職場でもすっかり人気者。たまに失敗もあるが、そこは、担任している体育のやさしい(?)先輩諸氏の暖かい励ましもあり、持ち前の根性で克服しているようだ。スポーツマンらしい爽やかさに加えて、物事を苦にしない呑気さも持ち合わせているようなので、まずは一安心。勝手がわかる二年目も、初心を忘れずに頑張ってくれるものと、大いに期待している。(紫雲寺町中央公民館 館長 小林豊男 記)

素顔拝見

小須戸町中央公民館主査

藤田尚義 氏 (40歳)

今年の公民館はやかましくなった。なぜかというところの方が昨年四月に来たからである。持つてる素質か、あるいは職場の雰囲気があったのか。とにかく町の「憩いとお茶のみ場」がキャッチフレーズの当公民館は強力なメンバーを加えることができた。



カパーしているように見える。現在は館報、幼児教育などを担当。特に館報を通し、地域課題を掘り起す大切な事業をこなす。趣味は映画鑑賞とお酒とパチンコ。「あとは奥さんにつけ加えておいてくれ」とぬかす。点数かせぎは見えないのである。

町民の期待と職場の期待、そして家族の生活を一身に背負うナイスミドルなのである。(小須戸町中央公民館 水沢喜代志 記)

